

<p>事業名</p>	<p>新型コロナウイルス感染対応緊急支援助成 「支えあう多様なコミュニティづくり」事業 最終報告会 熊本県新型コロナウイルス感染対応緊急支援助成事業シンポジウム 共歩・共感・共創する熊本～10のチャレンジから未来を描く～</p>
<p>開催日時</p>	<p>2023年 3月 5日(日) 10:00～16:30</p>
<p>会場</p>	<p>熊本県総合福祉センター5F研修室</p>
<p>目的</p>	<p>実行団体が1年事業の報告(取り組みや成果・課題)をするとともに、この事業にかかわる実行団体や関係者・参加者で熊本の未来を描く</p>
<p>参加団体</p>	<p>グループ①NPO法人せいしとらんし熊本／子育てネットワーク「縁側moyai」／子ども支援活動ボランティアグループ ゆめの絆∞わらびがみ(童神) グループ②NPO法人NEXTEP／株式会社 南阿蘇ケアサービス／一般社団法人フミダス グループ③一般社団法人オルタナ／「やっちろ保健室」運営協議会／一般社団法人sol ／ワールドフレンズ天草 参加人数:会場63名・オンライン18名・ライブ配信視聴20名:合計101名 ※会場では検温・体調チェック表記入済</p>
<p>PO・アドバイザー</p>	<p>プログラムオフィサー:河合 将生・中村 賢次郎・宮原 美智子 アドバイザー:五味 真紀・中山 勇魚・三島 理恵</p>
<p>スタッフ</p>	<p>小田川 望・本多 清美・久保 智絵美・小笠原 晟一・今村 智弘(配信担当)</p>
<p>内容</p>	<p>10:00～10:20 司会進行:くまもと未来創造基金 宮原 【オープニング】 ①YMCA挨拶、事業について(この事業の目的の確認)、 ②PO・アドバイザー紹介(一言挨拶)、チェックイン ③今日の流れについて 10:20～12:00 【第1部】団体発表(8分×10団体 交代2分) 実行団体発表内容(動画3分くらいを含めて) (1)団体・助成事業を取り組むことになった経緯 (2)助成事業終了時の目標 (3)取り組んだこと (4)目標の達成度や成果 (5)助成事業で成長したこと・変化したこと (6)今後の方向性 (7)相談したいこと・お手伝いいただきたいこと 10:20～10:30 発表①(社)オルタナ(100年ボンド) 10:30～10:40 発表②ワールドフレンズ天草</p>

	<p>10:40～10:50 発表③ 一社)sol</p> <p>10:50～11:00 発表④ 株)南阿蘇ケアサービス</p> <p>11:00～11:10 発表⑤ NPO法人NEXTEP</p> <p>11:10～11:20 発表⑥ 一社)フミダス</p> <p>11:20～11:30 発表⑦ NPO法人せいしとらんし熊本</p> <p>11:30～11:40 発表⑧ やっちろ保健室運営協議会(一社)看護のココロ)</p> <p>11:40～11:50 発表⑨ 子ども支援活動ボランティアグループゆめの絆∞わらびかみ (童 心)(NPO法人わらびかみ)</p> <p>11:50～12:00発表⑩ 子育てネットワーク縁側moyai (一社)子育てネットワーク縁側moyai)</p> <p>【第2部】</p> <p>12:00～13:30写真撮影・ランチ&交流会(団体作成動画をループ再生・ 各団体の体験ブースを周り交流)</p> <p>・ランチ:受益者の変化や現場感を写した2-3分動画を見ながらランチを食べる(30分)</p> <p>・団体交流:発表を聞いて、応援カードに「各団体の課題・相談したいこと・応援できること・アドバイスや感想」を書いて、実行団体の体験ブースを回りながら応援カードを手渡す(30分)</p> <p>・交流(25分)</p> <p>【第3部】</p> <p>13:30～15:40 みんなで考える「熊本の未来」</p> <ul style="list-style-type: none"> ●テーマ1:事業を通して考えた「支えあうコミュニティ」・成果や課題 ●テーマ2:熊本地震・豪雨災害・パンデミックの経験から考える「熊本の未来とは」 <p>進行役:熊本YMCA 中村</p> <p>会場内でグループトーク(実行団体・アドバイザー・一般参加者・事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●テーマ1:グループトーク・全体シェア ●テーマ2:グループトーク・全体シェア <p>各実行団体よりフリートーク</p> <p>15:50～16:30</p> <p>【クロージング】</p> <p>(PO・アドバイザー・審査員)からコメント</p> <p>閉会</p>
アンケートより	<p>【第1部について】</p> <p>・沢山の事業所の方と話をすることができ、その人達が抱える悩みなどを聞いたり、反対に聞いて貰えたりすることによって自分のこれからの行動が見えた。</p> <p>・プレゼンの内容もさることながら、10団体のみなさんがお互いに繋がりあった様子を感じました。最終2回しか参加していませんが、それだけでも、改良された様子が見て取れたので、その取り組みへのかかわりの深さを感じました。</p> <p>・この1年間準備から取りまとめまで、大変勉強になりました。各団体の成長もまた自分たちの事業に照らし合わせ重ね合わせて、共通の目的に進んでいると実感できました。</p> <p>・発表内容もミーティングなどを繰り返しやってきたことで、まとまっていたと思う。動画制作もみんなアイデアを出し合うことができた。チームとしての最終発表になったと感じている。</p>

	<p>・みなさんの努力の成果をしっかりと知ることができ有意義な時間でした。音声がかうまくいか不安で、落ち着いて話せませんでした。</p> <p>【第2部について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初めての参加だったため、うまく飛びこむことができなかった。 ・みなさんに楽しんでいただけることができました。 ・発表ではわからない事業内容などを丁寧に見られた。 ・頑張っカードが良かったが書くタイミングを逃し書く時間がかかった。 ・南阿蘇ケアサービスの体力測定ができて良かった。 ・自分たちで加工した文旦ピールと自家焙煎コーヒーを参加者全員に振る舞えた。 ・普段の発表の時にはわからなかった普段の雰囲気や、リーフレット、活動を見る事でもっと他団体を知る事が出来、身近に感じた。 ・展示の仕方や工夫などそれぞれの団体の様子が知れてよかったです。 <p>【第3部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の実行団体の人達の意見と想いを共有できた。特に若い世代の考えや熊本の未来に希望を持っていて共感できた。 ・他の団体の方々との交流や悩み、思いを共有できて、視野も広がり学びになった。 ・少人数グループで意見交換ができ、とてもよかったです。テーマが壮大ではありましたが、そのために自分(団体)ができることを考える機会にもなりました。 ・気持ちはよくわかるのですが、熱弁をふるう方がいて、均等に話せてなかった気がします。が、雰囲気はとても良く短い時間の中で親近感が深まりました。 ・発表の細かなところを実際話せて良かったが、各ブースの音が響いて話し声が聞きづらかった。 ・普段は違う活動をしている人と1つのテーマについて一緒に考える事で自分とは違う考えを聞けたり、テーマを通じて他団体の話しを聞けた。
<p>成果と課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実行団体の報告は、プレ報告会開催時から誰に向かって報告するのか・どんな協力が必要なポイントを絞った工夫が見られた。団体同士で事前に見合うことの大切さを思った。動画も映像担当スタッフのお陰で、無事投影ができた。これまで何度も発表しているので、時間管理も時間内であった。 ・交流の時間は各団体、それぞれ工夫を凝らして、団体アピールを行い、他の参加との交流を図っていた。感想にも研修で知る活動以外の様子を知ることができた良かったとあり、団体同士や一般参加者も含め、交流が図れたようである。 ・第3部は会場11グループ、インライン1グループで「グループトーク:行った。6人程度のグループ30分×2回としたので、十分な意見を吐き出す時間となったようである。 ・多様な団体が一つのテーマについて語り合う時間はなかなかない機会であり、参加者自身(実行団体・一般参加者・アドバイザー・事務局・審査員)が自分事として意見を出し合う場ができたことは有意義であったと考える。 ・今後もこの事業で育んだ多様なコミュニティの場を考えていきたい。 ・内容計画・準備・実施まで事務局スタッフの自主性を生かしながら運営ができた頃は、運営側としても大きな成果があった。 ・参加者が100名を超えたを超えたことは、団体自身が呼びかけたり、一般参加も多くあったことはよかった。

最終報告会の様子

第1部



第2部



第3部

